

「災害に強く、早期復旧が可能な水道づくり」

～水道局では、市民の皆さんと協働の取組みにより、安全で良質な水の安定的な供給を目指します～

神戸市水道局

平成7年（1995年）に発生した阪神・淡路大震災の経験・教訓から水道局では「災害に強く、早期復旧が可能な水道」を目指し、水道施設の耐震化などに取り組んでいます。

また、併せて災害時に利用可能となる災害時給水拠点も整備しており、平成27年度に「貯水機能がある災害時給水拠点」（震災直後でも給水可能な拠点）の整備が完了したことから、今後はより身近な場所で水を手取できる「災害時臨時給水栓」（管路の復旧状況に応じて給水可能な拠点）の整備を行っていきます。

災害時給水拠点について（詳しい場所は裏面にあります）

貯水機能のある災害時給水拠点

- 配水池等
- 大容量貯水槽
- ◆ 大容量送水管整備に伴う給水拠点
- △◇ 運搬給水基地を補充する拠点

全市計62カ所

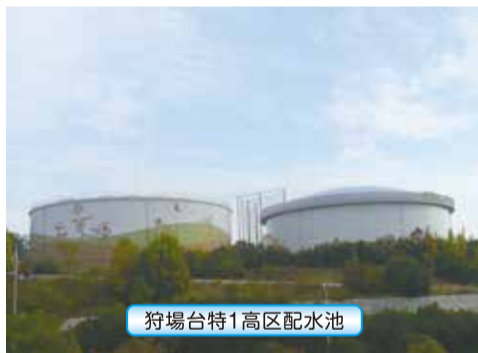


応急給水訓練

災害時に、市民の皆さんが主体的に給水活動を行えるよう、水道局では訓練のお手伝いをしています。

貯水機能のある災害時給水拠点

水の確保については、場所に応じて主に3つ種類があります。



狩場台特1高区配水池

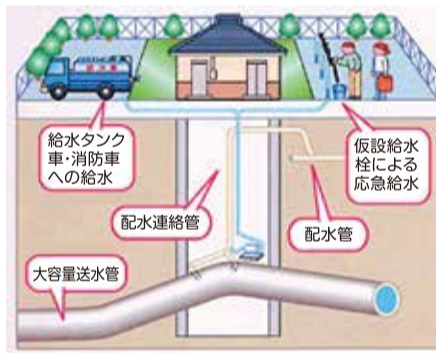
1. 緊急遮断弁を備えた配水池

通常は配水池で水を貯め、水道管を通じてみなさまに水を届けていますが、災害時に水道管との連絡を緊急的に遮断し、配水池内に飲料水を確保することができます。



2. 大容量貯水槽

通常は水道管として利用されていますが、災害時に水道管との連絡を緊急的に遮断し、貯水槽内に飲料水を確保することができます。（写真は工事の様子です）



3. 大容量送水管

市街地へ水を送る水道管に、高い耐震性と貯水能力を備えています。

シンボルマーク



御崎公園貯水槽



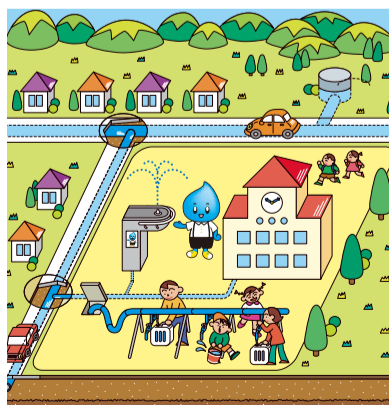
「災害時給水拠点」のシンボルマーク。このマークを各拠点に掲げることで、拠点の場所をわかりやすくし、災害時の速やかな応急給水を目指します。

災害時臨時給水栓

いつでもじゃぐち



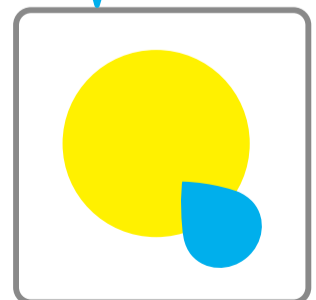
配水池と避難所となる小学校等を結ぶ水道管の耐震化が完了したシンボルとして水飲み場を設置しています。平常時は「いつでもじゃぐち」が子供たちの水飲み場として、災害時は「給水栓」が給水活動として利用できるもので、設置は平成28年度で完了しています。



ふっQすいせん



このマークが目印です。



災害時の避難所となる学校や公園に整備する給水栓で、水道管の復旧が進んでいくことにより給水が可能となり、より身近な給水栓で、水運搬の負担も軽減できます。